

令和4年度 学校評価報告書

学校番号(小45)長崎市立(三原小)学校

1 教育目標

「誇りをもち、主体的で、自律できる子どもの育成」
～確かな学力，たくましい体力，豊かな心をもつ三原っ子～

2 学校経営方針

- (1) 豊かな心(笑顔)の育成
 ●特別の教科「道徳」の授業実践の充実 ●特別支援教育の理解と充実 ●「あ・は・は・は運動」 ●仲よし触れ合いあいさつの定着 ●「さ・し・す・せ・そうじ」の徹底 ●こころの天気 ●あったか言葉の醸成 ●「はさみあるき」の徹底 ●くつならべの徹底 ●「三原っ子の約束」の確認と活用
- (2) 確かな学力(真剣)の育成
 ●「主体的・対話的で深い学びの実現」 ●本校独自の「学びのスタイル」の確立 ●単元を見通した授業づくり(全教科) ●「対話」を取り入れた学びの工夫 ●「学習の約束・心構え」「家庭学習の手引き」の確認と活用 ●ICT活用
- (3) たくましい体力(感動)の育成
 ●体育の授業改善による体力向上 ●運動の習慣化 ●健康づくり ●食育

3 重点目標

- 1) 豊かな心(笑顔)の育成
 ・道徳教育の充実と推進 ・特別支援教育の充実 ・基本的な生活習慣の形成と自発的な実践態度 ・思いやりのある心豊かな子どもの育成 ・新しい平和教育の理解と実践・いじめ対策基本方針に基づいた確実な対応・実践 ・係・委員会活動、及び「なかよしタイム」の活性化 ・児童会活動における自治力の高揚 ・「あ・は・は・は運動」の習慣化
- (2) 確かな学力(真剣)の育成
 ・授業改善による学力向上 ・「あじさいスタンダード」の具現化、充実を推進 ・「言語活動」の重視 ・授業研究による指導力の向上 ・基礎的・基本的な学習内容の定着(基礎学力の定着) ・図書館教育の充実 ・外国語活動の指導の充実 ・校内研修の活性化
- (3) たくましい体力(感動)の育成
 ・運動に親しむ態度の育成 ・保健的習慣の確立 ・安全教育の推進 ・給食習慣の確立と感謝の気持ちの醸成 ・アレルギー児童への確実な対応 ・定期的な縦割り遊びの実施 ・外遊びの奨励 ・「あじさいスタンダード体力づくり編」の具現化、充実を推進

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	94	92	100	○3者ともに肯定的評価は90%以上となっている。しかしながら1学期に引き続き、学校は楽しくないと答えた児童は15名。心の教育のいじめ防止の対策の教員が児童と保護者の数値がやや低いこととの関連がないか各クラスでの観察を意識的に行っていく。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	92	92	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	92	92	91	○教職員がすべての項目において100%なのに対し、いじめ防止の項目で児童・保護者は90%を下回っている。「心の天気」の結果を活用したり、学校でのいじめ防止の取組を周知したりするなどの見える化が必要。児童の心理的安全性を保障するための生活指導の具体的な取組を進めていく。
		挨拶をよくしている	90	92	100	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	94	96	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	98	91	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	90	87	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	96	97	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	96	98	100	
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	97	87	100		
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	97	90	64	○「自主学習はいらなと思う」などの保護者からの声も聞かれる中で、与えられた宿題のみを行っていくのでは、これからは必要となる力は育成されないことの周知が必要。また、そのような力を育成するための関心に基づいた自主学習にしていけるための校内での共通理解を進めていく。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	95	82	91	
		家庭学習の習慣が身に付いている	92	78	82	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	83	73	91	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	91	94	100	

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	96	96	100	○健康に関する教育は、年間を通して、計画的に「健康マスター」「メディアコントロール」などの取組がなされた成果である。家庭での基本的な生活習慣に関しては、今後も継続的な啓発が必要。「体力向上」に関しては、年間を通じた具体的な取組を継続していく。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	85	84	100	
		体力向上に努めている	92	81	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	92	91	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	97	93	100	○働き方改革等もあり、通信を頻繁に出すことは難しい状況ではある。しかしながら、学級の様子を知らせていくことは保護者の学校理解につながる有効な手立てであると考え。頻回を目指すのではなく、定期的に(2週間に1回)、毎月1日発行など受け取る側のニーズに(学習道具の準備など)合わせた発行を心掛ける必要がある。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	95	87	56	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	81	91	80	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			91	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	97	87	91	○環境整備に関しては、古くなった備品の修理や廃棄、施設の修繕等積極的に取り組むことができた。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			91	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○1学期2学期と継続して一定数の児童が学校は楽しくないと答えており、保護者の意識もそれに呼応している。いじめ等の防止対策や自己有用感を高める手立て、学力向上などの複合的な対策が必須である。児童のおかれた状態を客観的に把握し、適切な対応をしていくために現在実施している児童アンケートに加え、学級で個人の位置を図る「アセス」を導入する。

○全職員の参加型の校内研修を実施し、働きやすい職場づくりに関しては、共通理解のもと進められている。しかしながら、定められた時間を意識しながら働くことで通信の発行など外部に対しての情報提供は十分とは言えなかった。学力向上、体力向上、基本的な生活習慣の確立等に関しては、家庭との連携が必須である。学校の取組や考え方を示す、児童の成長について知らせていくことは信頼される学校づくりにとって大切であることは言うまでもない。全学級が共通の認識をもって今できる情報提供の方法について協議が必要である。

6 学校関係者評価

○特色ある学校づくりにおいて、教員の肯定的評価の割合が非常に低くなっている。まずは、職員が地域のことを知り、伝統や良さを教育課程の中にどのように取り入れていくか再度、地域を見直すべきである。

○基本的な生活習慣の確立には、家庭の理解と協力が必要である。育友会が主体となった家庭アンケートを実施し、各家庭の現状を自らが意識することで家庭の教育力の向上につなげていく。

○学校が楽しくないと答えた児童が一定数おり、また、配慮の必要な児童の増加傾向も見聞きされる。学校の中だけの対応には限界があると考え。保護や全体に向けた特別支援に関する講演会の実施など啓発活動が必要。

7 対策等の見直し

○アセスの活用による、児童一人一人の学級での位置確認。困りへの対応。

○育友会との連携強化。家庭の意識アンケートの実施。

○年間を見通した「体力向上の取組」

○地域学習の反映を意識した総合的な学習の時間の時間等の見直し。

○配慮が必要な児童への理解を深めるための育友会との連携した特別支援教育の取組(講演会実施など)。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。